

地震

～視点をかえることで見えてくるもの・こと～

授業者 附属池田小学校 池住 祐亮 末廣 彩華

1. 対象 附属池田小学校 第6学年東組(33名) 第2学年西組(34名)

2. 単元目標

・知識及び技能に関して

地震発生時の基本的な行動として「まず低く・頭を守り・動かない」、避難時の行動として「おかしも」についての理解をさらに深め、校内の場所に応じて臨機応変に行動する必要性について理解し、具体的な行動を考
ることができる。

・思考力, 判断力, 表現力等に関して

地震発生時の基本的な行動を基に、場所ごとの危険予測を行い、その危険予測を基に他者との対話を通して、危険回避する方法を具体的に考え、臨機応変に自分が動けるようにするために必要なことを見出して表
現しようとしている。

・学びに向かう力, 人間性等に関して

2年生: テーマに対して見通しをもち、自らの学びと他者の学びを比べながら粘り強く考えようとする態度を養う。
6年生: テーマに対して見通しをもつと共に、多面的・多角的に捉え、自分の立場を意識して(守られる側から守
る側へ)、自らの学びと他者の学びに寄り添いながら粘り強く考えようとする態度を養う。

3. 指導に当たって

(1) 単元を通して育む「グローバル市民」と学習との関連

・グローバル市民の選択項目⇒「寛容な人」

・学習との関連

本単元は、「地震」という誰にでも遭遇する機会のあることをテーマとし、低学年と高学年が一緒に学びを進
めていく。その際に、他者の意見や考えに対して共感の姿勢で接することや他者との関係性を広げていくこと
をねらいとする。

・単元を通して、目指す子供の姿

2年生: 他者の意見や考えに耳を傾け、今まで気づかなかったことに気づき視野を広くもつことができる姿

6年生: 他者の意見や考えに耳を傾け、自分と他者との関係性を意識して相互理解を進めることができる姿

・目標達成するためにつけるべき力

2年生: 自分の考えと比べながら他者の話を聞こうとする力

6年生: 自分と他者との関係性に考慮し、自分の考えを伝え、相手の考えを受け入れ、さらに自分の考えを
再構築しようとする力

(2) 教材観

本単元では、「地震」をテーマに学習を進めていく。「地震」は日本に住んでいる限り、いつか誰もが遭遇する
であろう事象である。本校では毎年「地震」について学ぶカリキュラムが設定されており、避難訓練等を通じて考
える機会も設けている。よって、学年相応の知識の積み上げに留まることなく、「いざ」という時に一人一人が自分
で判断し行動できるように視野を広げる機会となるであろう。また、校内の場所を手がかりとし、具体的な想像や
想定を行うことで、「いざ」という時の行動についてイメージを深め、より詳細に考えることができる教材である。

(3) 児童観

今年度2年生と6年生は1学期に学校たんけんを一緒に行い、相互の存在を意識する学習を行った。異学
年で交流することで互いの立場によって学び方が変わることを感じている。

「地震」というテーマに対して、2年生は経験したことがなく映像等を通して伝え聞いたことはあるが、具体的に想像することが難しいようである。一方、6年生は「大阪北部地震」の際には幼稚園児であり、記憶している児童もいる。また、2024年元旦に起きた「能登半島地震」について調べ学習を行ったり、これまでの安全科や社会科や理科等の学びの蓄積があり、「地震」が起きた時の状況を具体的に想定することができる児童もいる。

本単元では、異学年で学ぶことでさらに「地震」に対する視野を広げると共に、発達段階の違いに気づきそれぞれの存在が学びを相互に支え、自らの行動を考え続ける姿を目指している。

(4) 指導観

本単元では、発達段階を学びの作用として捉え、相互の理解を促進し、より具体的な自分事化のために他者と共に学ぶことの重要性を児童が実感できるようにしていく。発達段階の学びの作用としては、今回校内の場所をグループで調べ、物理的な視点の違いに気づくことから学びが始まる。物理的な視点の違いは体格差や視野の広さ等であり、なかなか普段の生活では気づきにくいと考える。それは、同じ空間を共に過ごす時間が少なかったり、遊びの内容等も異なることが理由としてあげられる。また、これまで「地震」をテーマにしてそれぞれ学年ごとに学びを進めており、学年相応の知識をもっているが、そのことを意識する環境には出会っていない。このようなことから、これまでの知識・技能を広げると共に、具体的にそれぞれが自分にできることを考え、他者との対話を通して自ら相違点に気づき、自分の学びを深めていくことができるようにする。学校という場所において他者と学び合うことは必要不可欠である。また、「地震」については必ず備えが必要なことである。これらの必然性を児童が捉え、他者と共感しながら考え続ける姿勢を自分なりに築いていくことができるように異学年という発達の特性を生かして進める。また、学びの空間は自分たちで創っていけるようにグループで学びを進め、具体的且つ納得感のある学びになるように教師は適宜グループの対話に入りファシリテートしていく。今回、場所は2年生が決めている。そのことにより、自信を持って自分の考えを伝えることができるであろう。また、6年生は場所に対して広い視野をもって2年生と関わることで他の場所への汎用性に繋がっていくであろう。相互の学びの中でそれぞれが自分の考えと比較しながら、今の最適解を自ら導き出せるように対話と共有を往還させながら共感的に学びを進めていく。

+

4. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地震発生時の基本的な行動を基に場所によって臨機応変に行動する必要性について理解している。	地震発生時の基本的な行動を基に場所ごとの具体的な危険予測と危険回避について、適切な判断を行い、自分ならどうするかについて行動を選択し、表現している。	テーマに対して見通しをもつと共に、多面的・多角的に捉え、自分の立場を意識し、他者との対話を通して粘り強く考えようとしている。

5. 単元の指導計画(全4時間)

時間	学習内容	主な評価規準	評価の観点			評価方法
			知技	思考	態度	
1	阪神淡路大震災の語り部さんの話をふり返り交流する。	テーマに対して見通しをもち、対話の中で自分の考えを比較している。			●	ワークシート
2	グループで場所ごと危険予測を行い、全体共有をする。	場所ごとに具体的な危険予測を行っている。	●	●		ワークシート 対話
3 【本時】	グループで場所ごとに危険回避を考え、全体共有する。	場所ごとに基本動作+αを考えている。	●	○		ワークシート 対話
4	グループごとに再度場所を見直し、通用するものか検討する。	再度場所を見直し、自分事として捉えている。		●	○	ワークシート 対話

●・・・形成的評価(指導に活かす評価) ○・・・総括的評価(記録に残す評価)

6. 本時の展開

(1) 本時の目標

2年生：場所ごとに考えた危険予測から、危険回避の行動を具体的に想像し、自分ができていることを考える。

6年生：地震の時に想定されることを、場所という視点で見つめ直し、自分の立場を意識しながら共感の姿勢で接し、「基本動作+ α 」を具体的に考える。

(2) 本時の評価規準

地震発生時の基本的な行動を基に場所ごとの具体的な危険予測と危険回避について、適切な判断を行い、自分ならどうするかについて行動を選択し、表現している。

(3) 本時の学習とグローバル市民コモン・ループリックとの関連

① 項目

「寛容な人」

② 内容

2年生：「地震」をテーマに他者の意見や考えに対して共感の姿勢で接し、自分の考えと比べながら学習に取り組むことができる。

6年生：「地震」をテーマに自分と他者の関係性を意識しながら、他者の意見や考えに対して共感の姿勢で接し、相互理解しながら自分の考えを再構築しようと粘り強く取り組むことができる。

(4) 展開

学習過程	学習活動および内容	指導上の留意点	評価の観点・方法
導入 5分	・前時のふり返りを交流する。 ・地震発生時の「まず低く、頭を守り、動かない」が基本動作であることを確認する。	・前時のふり返りを手元に置き、自分の考えと比べながら他者のふり返りを聞くことができるようにする。 ・教室の掲示物を示しながら全員で確認をする。	
展開 25分	・場所ごとのグループに分かれて、前時の危険予測を基に「基本動作+ α 」を考える。 ・全体で交流する。	・危険予測について人の視点の違いに焦点化し、場所ごとの特徴を意識して考えるように促す。 ・どのようなことが判断のきっかけになったのか理由を問うようにする。	・ワークシート 知識を生かして考えているかどうか。
まとめ 15分	・今日のふり返りをする。 →グループで交流する。	・今日の学びを自分の言葉で記録に残すと共に、他者との対話がどのように自分に影響したのかについても書いておくように声をかける。	・ワークシート

(5) 準備物

ワークシート

7. 参考文献

石井英真（2024）「教育の「変革」の時代の羅針盤」 教育出版

8. 資料:池田地区「グローバル市民」コモンルーブリック

項目	高等学校	中学校	小学校	
			高学年	低学年
主体的な人	これまでの経験や学んだこと、 新たな試みの視点 などから目標を持ち、その達成に向けて 自主的に粘り強く、創造的に 取り組むことができる。	これまでの経験や学んだこと、 試みの視点 などから目標を持ち、その達成に向けて 自主的に粘り強く 取り組むことができる。	これまでの経験や学んだこと、 試みの視点 などから目標を持ち、その達成に向けて 自主的に 取り組むことができる。	これまでの経験や学んだことから目標を持ち、その達成に向けて 進んで 取り組むことができる。
つながりのある人	これまでの経験や知識を関連づけて 創造的に 物事を考え、 周りの人たちや異なる文化圏の人たちとの協働を構想・実践 することができる。	これまでの経験や知識を関連づけて物事を考え、 地域社会の人たちとの協働を構想・実践 することができる。	これまでの経験や知識を関連づけて物事を考え、 学校の人たちと協力して 取り組むことができる。	これまでの経験や知識をもとに物事を考え、 学級の人たちと力を合わせて 取り組むことができる。
探究力のある人	自らの問題として、 身近なコミュニティや世界の出来事 から課題を見出し、その解決に向けて取り組み、 振り返りながら、創造的に 追究することができる。	自らの問題として、 身近なコミュニティ から課題を見出し、その解決に向けて取り組み、 振り返りながら 追究することができる。	自らの問題として、 身の回り から課題を見出し、その解決に向けて取り組み、 振り返り ることができる。	自らの問題として、 身の回り の課題に気づき、その解決に向けて取り組むことができる。
寛容な人	他者の意見や考え方に対して 共感と傾聴の姿勢 で接し、 多様性を尊重しながら相互理解 を深めることができる。	他者の意見や考えに対して 共感の姿勢 で接し、 多様性を受け入れ相互理解 を進めることができる。	他者の意見や考えに対して 共感の姿勢 で接し、 相互理解 を進めることができる。	他者の意見や考えに対して 共感の姿勢 で接することができる。

